

発展を続けるまち 南区



深い森の中に向かって一直線に続く銀色のシェルター。それを迎える高層住宅群。

札幌市の急成長を象徴するこの光景は、同時に南区の誕生と発展の歴史でもあります。

昭和47年4月。札幌市が政令指定都市として大きな変革を遂げた年、南区は誕生しました。

あれから30年。南区は今再び未来に向かって新たな出発点を迎えています。

昭和47年の地下鉄真駒内駅周辺

アジアで初の冬季オリンピックが大成功のうちに幕を閉じ、市民が一息ついたところで区制が施行されました。札

変わる市民生活



天皇陛下（当時は皇太子）ご夫妻
真駒内駅見学（昭和46年）

区制施行前の南区では、地下鉄南北線の開通と札幌オリピックの開催を目指して大規模な開発が行われていました。五輪団地の建設や公園の造成、上下水道の新設など、当時急成長を遂げていた札幌市が全力を投入して事業を進めていた時期です。

区制施行前の南区



南区役所開設記念パレード（昭和47年）

幌市の歴史に残る出来事が次々と続いた中で人々の生活はどのように変わったのでしょうか。真駒内東町に育った加藤武二さんは、当時の市民生活の変わりようを、「地下鉄ができたことによって、都心にはそれまでの五分の一ほどの時間で行けるようになりました。そのせいか真駒内駅には、都心に通勤するサラリーマンが多く目立つようになりました」と語り、交通が便利になったことを第一に挙げています。

昭和五十年代から六十年代にかけて、南区は急速な発展を遂げることになりました。澄川地区では、地下鉄駅周辺と平岸通沿いに商業店舗が立ち並び、区内で最もにぎわいのある地域として発展しました。また、国道230号沿いの石山地区、藤野地区、簾舞地区は、戸建て住宅と店舗が整然と立ち並び、自然の中にあつて美しい街並みをつくっています。この時期は主に民間企業による宅地造成が盛んに進められました。札幌市の代表的な事業としては、昭和六十一年七月にオープンした札幌芸

成長する南区

また、区役所の開設について、「それまでは、何かあるごとに本庁舎まで出向くことが多かったのですが、手続きや相談のほとんどが区役所でできるようになり、大変便利に感じました」と懐かしそうに語ってくれました。加藤さんの言葉にあるように、地下鉄の開通と区役所の開設は当時の区民にとって画期的な出来事だったようです。